

女性運転者の運転の実態と意識に関する調査研究（平成元年度）

今後更に増加が見込まれる女性運転者に対する交通安全教育を、より現実的に実施していくための基礎資料とするため、女性運転者の運転実態、運転態度・意識など、車と車社会とのかかわりあい並びに女性運転者の交通事故の特性について具体的に明らかにするとともに、昭和 57 年度に実施した女性運転者に関する調査研究の結果とも比較することにより、経年的な推移について明らかにした。

- ① 昭和元年 9 月の更新時講習受講者約 6,500 人（うち女性約 3,000 人）にアンケートを実施した結果をもとに、免許保有者 1 人当たり年間走行距離 100 万km当たりの事故率を算出すると、女性は 1.57 件と男性（1.04 件）の 1.5 倍となっており、中でも 40 歳代の事故率が男性の 1.74 倍と高い。
- ② ふだんの運転行動をみると、女性運転者の方が男性運転者よりも攻撃性が弱く、好ましい傾向をもっているが、昭和 57 年度調査時点と比較すると、「他の車が割り込もうとしたら、入れないようにする」「前の車がのろのろしていると、つい追い越したくなる」などの危険な運転傾向が増大しており、他の車との関係において女性の攻撃性が増していると思われる（図）。
- ③ 女性は運転に対する不安感が男性より強く、特に速い速度での運転やすれ違い、バックなど運転技術を必要とするような場面のようなものである。運転への余裕についても、バックミラーで後ろを見る余裕が無いなどの傾向が強い。行こうか行くまいか迷うことや、運転中になんとか不安になってブレーキを踏むことが男性より多いことも、女性運転者の特徴である。また、「前の車についていけば安心して右左折できる」「男性は女性ドライバーに親切にすべきだ」と考える女性ドライバーが多く、他の車への依存的傾向が強いといえる。また、女性ドライバー観について、唯一、昭和 57 年度から認識する割合が増加しているのは、「女性は自己本位の運転をする」である。
- ④ 今後、女性ドライバーの事故率が高い傾向にあるとの研究成果が認識されることにより、広い層で女性の事故防止の研究が行われるようになることが望ましい。また、女性ドライバーには「車の構造を知らない」「交通ルールを知らない」など、運転や、その関連の知識が不足している傾向がみうけられるので、交通知識や関連知識を女性向けに教育する機会を増やしていくことが必要である。女性ドライバーには運転に対する不安感が高いが、この背景には、女性の運転頻度が少なく、運転技能を向上させる機会が少ないことがあると思われるため、女性が楽しく、気軽に運転技能を向上させる場を増設することが事故防止に役立つと思われる。さらに、女性ドライバーには、他の車への依存的な傾向が強いが、運転場面では男女同じように運転に責任を持たなければならないことから、運転場面ではまったく対等な立場であるとの認識が、早い時期に女性にも男性にも確立されていくことを期待するものである。

図 ふだんの運転行動の昭和57年調査結果との比較（女性・肯定者比率）

